

概要

大脳が活動している際に発生する電気信号を波形として記録する検査です。

検査方法

頭部や額、耳たぶに電極を付け、波形を記録します。検査中はベッド上で安静・閉眼状態を保っていただき、睡眠していただいて構いません。必要に応じて、開閉眼、閃光、深呼吸などの刺激を行います。

検査で分かること

主にてんかん、脳炎、意識障害などの精査・鑑別に用いられます。脳に何らかの障害がある場合、その部分から通常では見られない異常波が出現する場合があります、この異常波を見つけることを目的としています。起きている状態の記録だけでは異常波を見つけられない場合があるため、睡眠や開閉眼、閃光、深呼吸など脳に刺激を与えて検査をしています。また、異常波の出現のみならず、脳に刺激を与えた際にどのように波形が変化するか調べています。

注意事項

- ・電極を装着する際にはクリーム状のペーストを使用します。頭部や髪の毛が汚れてしまうことをご了承ください。ペーストは水で洗髪していただくだけで取れますので、検査終了後に洗面台にて洗髪することも可能です。
- ・幼児など安静状態を保つことが困難な患者は、検査前に睡眠導入剤を使用する場合があります。主治医とご相談ください。

所要時間

約 60 分程度

よくある質問

Q：なぜたくさんの電極をつけるのですか？

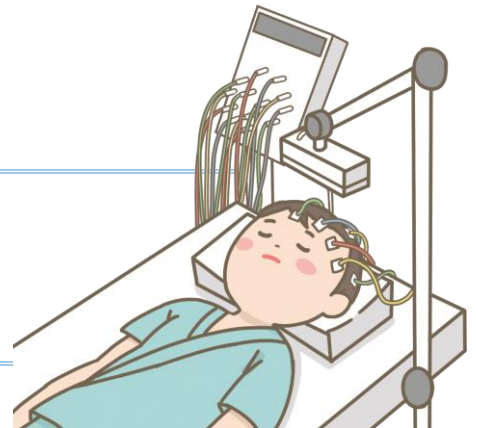
A：脳全体を調べることができるようたくさん電極をつけています。電極の装着位置は決められており、波形の変化や異常波の出現から脳のどの部位に異常があるかを推定することができます。

Q：電気で感電しませんか？痛いですか？

A：大脳の電気活動を機器が感知して記録するだけであり、機器から体に電気を流すことはありません。感電の心配や痛みはありません。

Q：以前検査をしても異常は無いと言われたが、なぜまた検査をするのですか？

A：必ずしも異常波が出現するとは限らず、その日の体調や、薬の効き具合などでも脳波は変化します。そのため、間隔をあけて再度検査をする場合があります。



Q：寝ていないと検査できないのですか？

A：起きていても脳波の記録はできますが、脳波は非常に小さな電気信号を記録するため、起きている状態で動いてしまったり、力が入っている場合には筋肉の動きが脳波に入ってしまい、記録の妨げになります。そのため、安静状態を保つことが難しい幼児などの場合には事前に睡眠導入剤を使用する場合があります。また、睡眠状態で異常波が出現しやすくなると言われていますので、可能な限り寝ていただきますようお願いしています。